

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第6回 定期総会 (通算11回)

議事次第 ・ 資料等

日時 2004年6月6日(日)

午前11時00分から午後12時30分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第6回 定期総会

資料添付リスト

議案提案

1. 2003年度の活動報告と決算報告 議決事項
活動報告 3ページから7ページ 決算報告8ページから12ページ

2. 2004年度の活動方針案と 予算案 議決事項
予算案13ページ 活動方針案 14ページ

3. 役員選出 15ページ 議決事項

- 資料（別紙）
 - ・ 赤目の森『里山生活学校&フィールドミュージアム構想』企画書
 - ・ 「千葉県里山条例」について

【議案 1】 2003年度の活動方針に沿っての報告

1. 信用と信頼が得られるような赤目の里山を育てる会の活動を追及する。
使命に基づいた原則的な活動に立ち返り、地道な取組みの実現に尽くす。
バードウィーク 探鳥会 環境の日イベント 植林 自然観察会などの事業化
地元の人たちとの関係を強化するような意識的な活動を追及する。
また、事務局機能を再認識する。
 - イ 各種イベント「木洩れ日コンサート」「地域里山子ども探検隊」「木質バイオ 木を切って楽しんでみよう」などの実施は、地元の人たちが多く参加して、地元に着いてきた感が強い。
 - ロ 里山だよりの年間 3回の発行 インターネットのメルマガ毎月発信(読者242名)などの情報発信を実現することができた。
 - ハ 里山保全リーダー養成講座 里山レディース講座 子ども里山探検隊などの各種講座は、受講者が少ない中で講師の変更等講座の運営に手間取り、受講生に迷惑をかけた。次年度の計画は選任講師で実行することになっている。
 - 二 探鳥会や自然観察会などの素朴な取組みが少なかった。
 - ホ 地域からの問い合わせが増えてきており、地元での定着感は増大している。しかし、会員増加には至っていないのが現状。意識的な会員獲得の努力が求められる。
 - へ 事務局の仕事の分担改善は今だにできていない状況にあるものの、インターネットなどの利用により、仕事のボランティア募集などもリアルタイムでできるように工夫していきたい。
 - ホ 次期の役員の任期中に「10周年」を迎えることになる。その記念の時を充実した取組みで迎えるために、活動のマナー化を防ぎ、原点に戻るような取組みが求められると考える。
 - へ そのために、事務局の役割の中での「調整機能」の取組みが今後益々求められると思う。赤目の里山を育てる会が取り組む全ての事業に関わる人達を育てる会に結びつけるのが事務局の大きな仕事である。特に里山保全で頑張っている会員さんたちとの意思疎通は欠かせないものである。
2. 里山保全活動の充実を図るとともに、認定林業事業体の取得を目指していく。
里山の保全団体として、赤目の里山を育てる会のセールスポイントのような豊かな里山の景観を創造していこう。そして、その技術と理論、見識を高め、事業を展開できるようなステージをめざす。行政の山林ゾーニングの中で位置付けられた「認定林業事業体」の取得を目指し、「食べていける里山保全」の道を視野にいれることは、実現できれば、全国のモデル事業として注目され、全国500万ヘクタールの里山の保全に有効に作用することができる。
 - イ 里山保全活動は、画期的に進んだ年だと思う。特にトムソーヤ広場の120年前の景観復活作業は、赤目の里山の「セールスポイント」の創造で、関わった会員さんたちの労苦に感謝。
 - ロ トンボ池周遊のトレールの補修なども順次行われていて、里山快適空間作りが大変役立っている。
 - ハ 里道「桃山古墳線」の開通努力により、赤目の里山の新たな魅力が増すとともに、里山の地主さんのアクセス道としても大きな役割を果たすことができた。
 - 二 「認定林業事業体」の取得については、伊賀県民局の担当者と協議しているが、その枠組みが明確にされないこともあり、現在中断している状況。協働事業の推進の中で展望を見出していきたい。
 - ホ 里道やトレールの整備などの基本的な仕事が充実してきた会の状況を踏まえて、里山の木々達の保全にステップアップして活動の幅を広げることが、会員さんたちのニーズを実現することになると考えている。

3. ナショナル・トラスト運動の取り組みの強化

赤目の里山を育てる会のプロパティを拡大していくことが、赤目の里山の再開発の抑止になる。現在購入を検討している場所以外でも第二第三の物件を探していくことが重要。また、(社)日本ナショナル・トラスト協会とも連携して、日本のナショナル・トラスト運動の発展に寄与することを課題とする。

イ 赤目の里山を育てる会の活動が日々前進することが「ナショナル・トラスト運動」

の発展に寄与すると言える。各種の情報発信や各地からの視察研修などでの「ナショナル・トラスト運動」啓発に大きな役割を果たすことができている。

ロ 会員の情報収集による「トラスト地」候補に対しては、資金の調達よりも利用の内容の検討が必要で赤目の里山のご真ん中の候補地が出てきた時は、全力で取得する作戦で情報収集を進めていきたい。

ハ (社)日本ナショナル・トラスト協会との関係を強化する。全国的な情報や教訓を入手するとともに、赤目の里山を育てる会が全国へ取り組みを発信する一つの窓口と位置付けていきたい。

ニ 赤目の里山で、関係している場所の際面確認の作業を行うと共に、地主さんとの関係改善を進めて、里山環境の保全にさらに貢献していく努力していく。

4. 政策提言能力を高めて、「里山のシンクタンク」をめざす。

里山の健康的なあり方が有るとすると、いろいろな行政的な施策を講じながら、まちづくりの中心核の取り組みになっていくだろう。里山のあらゆる関係についての調査・研究活動を展開することが、行政との協働事業となれば、赤目の里山を育てる会への信頼は増すであろう。名張 市民活動 ボランティア交流会推進会議への参画は、名張市における「中間支援センター」のあり方を決める重要な位置付けとする。

イ 伊賀県民局との協働塾での「木質バイオマスエネルギー関連」のテーマ採択は、大きな成果である。行政の政策課題の提案を行い、そのテーマについて行政と一緒に予算獲得までの道筋を議論するという協働事業は、全く今日的協働事業といえる。

ロ 一昨年以來各種の助成金、行政委託金で多くの調査研究、行政提案などを行ってきたが、その提案の実現に向けての環境が整いつつある。再度行政担当者との協議の場設定を行ってきたい。

ニ 県民の財産であり、行政が管理している「里山保全器機」(草刈車・チップパーなど)を非営利活動法人に貸し出してもらえよう働きかけを行ってきた。現在そのルール作りが進んでおり、近く実現の方向になると思われる。

ホ 名張市市民活動支援センターが新たに新設されて、名張市における市民活動の拠点ができた。名張市市民活動ボランティア交流会推進会議は最近復活して、センターを中心とした交流事業に着手するようになった。育てる会はその取り組みの中心となって担い、中間支援センター的な役割も実現するよう取り組んでいきたい。

ヘ 名張市での「中間支援」の役割がどれくらいあるのかということは現在よくわからないが、赤目の里山を育てる会に直接問い合わせたりすることも多く、そのノウハウを支援センターと協働して、各団体に協力していきたい。

5. 里山での介護サービス提供の充実を計る。

全国的に介護サービスに取り組んでいる人たちにとって、豊かな環境の場での介護サービス実現が大きな関心と課題となっている。里山の「原体験」と「原風景」を持っている高齢者にとって、里山での介護サービスの実現は、究極の里山利用ということができよう。利用者の確保に全力をあげるとともに、里山のフィールドの整備保全にも全力を傾けて、「バリアフリーの里山作り」をも実現しなければならない。

- イ 今年度から実質始まった「デイサービス赤目の森」での介護事業は、この一年間無事に事業を拡大し大きな成果を得ることができた。収支も1年目からトントンという状況となり、名張市で初めての特定非営利活動法人による介護サービス事業は、介護関係者や利用者には大きなインパクトを与えている。
 - ロ 「里山のユニバーサルデザイン」という目標で、里山に介護サービスの拠点を持ったことが、多くのまちづくり関係者に評価されることになった。「中部の未来創造大賞優秀賞」受賞 三重県社会福祉協議会会報への記事紹介 あしたの日本を創る協会会報への原稿依頼など。実際 里道作りには「バリアフリーの視点」が入るようになり、里山の利用がデイサービス赤目の森の利用者にもできるように作業が進んできていることを喜ぶたい。
 - ハ 一方、育てる会がデイサービス事業を取り組むことに対して、責任問題などから相当数の異論があり、理事会等で一定時間かけて「実行するか、撤退するか」を含めて審議していきたい。
6. 木質バイオマス研究会の創設に尽力していく。
- 里山の伐採更新の促進を進めていくためには、伐採材の有効活用の道をどうしても広げていかなければならない。そのためには、これまで追求してきた「木質バイオマス利用」を具体的な課題として提起して、行政・地域に積極的に働きかけを行い「伊賀木質バイオマス研究会」の発足を目指していく。
- 行政 森林組合 関係諸機関などとの協働を実現し、林業関係者との連携を模索していく時代に入ったと認識したい。
- イ 伊賀県民局との協働事業により、「木質バイオマスエネルギー関連」の検討調査が終わり、赤目の里山を育てる会としての提案を出した。木質バイオマス研究会の創設もその提案に入っており、現在その提案に対して県民局としてどのように対処していくかを検討中である。県民局と一緒にこのような研究会を立ち上げることができれば、このテーマについての事業化は大きく前進すると思われる。
 - ロ 新年度には三重県庁のNPOチームが「政策提言」を募集するので、あらためて県のレベルでの提案を模索していきたい。
 - ハ 里山保全リーダー養成講座などでも、この事業化について検討を重ねていきたい。
 - ニ 全国の「木質バイオマスエネルギー研究会」などとも連携して、全国的な情報を入手すると共に全国的な「木質バイオマス」関連の活動推進に努力する必要がある。
7. 赤目の里山の「自然公園化構想」を一層発展させる。
- 名張市においてまとまった広さの里山の保護保全は、大切な課題と位置付けられる。
- ただ、自然を残していくというだけでなく、多くの市民の「憩い」の場となっていくような積極的な取り組みを行政とともに取り組んでいきたい。具体的には、里道の管理保全、トイレや事務所の管理運営、見学にこられた人々への案内、四季折々の企画実施、などの取り組みを総合的に実現していくことを課題とする。
- イ 赤目の森『里山生活学校&フィールドミュージアム構想』企画書(案)を協働塾の取り組みの一環の中で、県民局 名張市へ提案してきた。名張市の財政非常事態宣言の中で、新規事業が凍結している中ではなかなか採用は難しいが、市長の姿勢は「名張市のみどりは宝」という立場なので、赤目の里山を市政全体から位置付けることは、できるのではないかと考えている。
 - ロ そのために「名張市里山保全条例」という条例提案を積極的に行っていくことが求められると考える。新年度には「里山保全条例」案の骨子作りを理事会中心になって行っていきたい。

2003年度 活動全記録

- 2003年 4 /13 里山保全リーダー養成講座
5 /11 里山保全リーダー養成講座
14 里山レディース講座
15 日本ナショナル・トラスト協会 理事会
18 赤目の里山を育てる会 理事会
6 / 1 里山レディース講座
8 赤目の里山を育てる会 定期総会
15 里山保全リーダー養成講座
18 里山レディース講座
23 伊賀フォーラム2010総会
27 (社)日本ナショナル・トラスト協会 愛知会長来訪
第二号トラスト地の木道トレイルの修復完成
7 / 2 赤目小 里山散策
10 里山だより 発行
トムソーヤ広場 ベンチ設置
第二号トラスト地 田植え
13 里山保全リーダー養成講座
「協働塾」参加プレゼンテーション
15 協働塾 提案事業採択
17 里山レディース講座
27 里山レディース講座
8 / 3 リクレーション講座参加 名古屋
8 /30 里山保全リーダー養成講座 合宿
9 / 7 里山レディース講座 17日も
10 国際ワークキャンプ 開始 24日まで 8名
JTBカルチャーサロン ワーキングホリデー
13 NPO全国フォーラム 14日
26 滋賀県甲西町グループ視察 20名
29 協働塾 木質バイオマス第3回
10 / 8 滋賀県長浜市グループ 視察 30名
19 どんぐりの森作り&木洩れ日コンサート 150名
24 協働塾 木質バイオマス第4回
29 三重県藤原町ほうすけクラブ視察 25名
里山だより発行
11 / 7 ナショナル・トラスト全国大会9日まで 世田谷
11 協働塾 打ち合わせ
15 高槻 堅田温泉 木質バイオ ペレット工場見学 6名

- 17 滋賀県 甲賀県民局グループ 視察 30名
- 19 赤目小学校 里山散策 稲刈 里山レディース講座
赤目の里山が伊賀地方で第1号の「里地里山計画認定地」の登録
- 23 里山リーダー養成講座 三重県 里山散策デー 里山レディース講座
- 28 協働塾 第5回
- 30 伊賀教職員グループ視察 15名
- 12 / 3 第1回 名張市市民公益活動促進検討委員会 委員委嘱 事務局長
- 14 里山リーダー養成講座
- 17 里山レディース講座
- 21 地域子ども里山探検隊 餅つき大会 55名
- 23 デイサービス赤目の森 会食会 家族懇談会 25名
- 2004年 1 / 25 里山リーダー養成講座
協働塾「木質バイオ 木を切って楽しみ学ぼう」 35名
- 27 名張市市民活動率先協働事業「NPO初級講座」19名 「ふれあい」
- 2 / 10 NPO初級講座 ふれあい
- 11 伊賀の国市民活動交流会 青少年センター
- 16 第二号トラスト地の地目変更の届出を出す。
- 17 NPO初級講座 ふれあい
- 18 (社)日本ナショナル・トラスト協会 関西会議
- 19 韓国NGO視察
- 24 国際ワークキャンプ 3月5日まで
トムソーヤ広場の周辺の熊笹の刈り取りが急速に進む
ハッチョウトンボの池の草刈が行われる
- 26 赤目小学校 里山散策
- 29 八日市まちづくり視察
- 3 / 2 NPO初級講座 ふれあい
- 9 協働塾 報告会 伊賀県民局
- 21 里山保全統一活動打ち合わせ会 里山広場
里山広場などの片付け整備などが進む
- 29 協働塾 振り返り会議 伊賀県民局
- 30 里山だより発行

協働塾 ペレット製造見学 高槻森林組合 11/15

トムソーヤ広場の整備 果樹の植樹 2/26

2003年度 貸借対照表

2004年3月31日

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

科 目	金額(単位 : 円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,012,736	
内訳 現金	72,329	
郵便貯金	372	
郵便振替	14,580	
第三銀行	9,276	
第三銀行	882,772	
第三銀行	7,739	
第三銀行	961	
ろうきん東海	24,707	
介護報酬未収金	2,223,106	
仮払金	13,770	
流動資産合計	3,249,612	(a)
2 固定資産		
① 有形固定資産		
車両運搬具 軽トラック	74,559	
車両運搬具 林内作業車	106,236	
車両運搬具 送迎車両	3,677,765	今年度413万円で購入
什器備品 高速印刷機	69,274	(日本財団助成)
什器備品 木製案内看板	13,907	
什器備品 デジタルカメラ	13,383	
什器備品 コンピューター	193,347	
建物 ミニログハウス	559,063	
第1号トラスト地	1,501,000	
第2号トラスト地	1,000,000	
有形固定資産計	7,208,534	(b)
資産合計	10,458,146	(a)+(b) = (c)
II 負債の部		
1 流動負債		
立替金	2,759,082	
流動負債計	2,759,082	
負債合計	2,759,082	(d)
III 正味財産の部		
正味財産合計	7,699,064	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額	601. 911
減価償却費計上	986. 203
当期正味財産減少額	1. 588. 114
前期繰越正味財産額	9. 287. 178
期末正味財産合計額	7. 699. 064

3. 立替金の内訳

エコリゾート赤目の森から立替えてもらっている。2. 751. 487円

個人から 7. 595円 合計 2. 759. 082円

この資金は、短期借入金にある意味で該当するが、流動資金の中で、未収入金が220万円以上有るので、相殺すればそれほど大きな金額とはならない。

4. 会計は公益法人会計に準拠しているので、損益計算書はない。

収支決算書の中で、本来事業という名称が付けられているが、NPO法人決算の場合は収益事業を行った際には、決算を別にしなければならないことになっている。赤目の里山を育てる会は、定款の目的の事業を全て行っているために、収益事業の決算はない。

この収支決算書が承認されれば、貸借対照表 財産目録などを添付して、三重県へ提出する。

5. 貸借対照表の中にある備品や土地などは、固定資産として財産として管理している。

償却資産については、毎年減価償却費を計上し、正味財産の現在額を算出する。

ちなみに、04年度の減価償却費は986. 203円で、助成金での送迎車購入での償却が大きかった。

現在では、20万円未満の物品は当年の経費参入できるので、そのように処理している。

例えば チェーンソー 杵と臼 コンピューターなどは備品ではありますが、低額なので財産目録は作っていません。現在熊本理事が備品台帳の整備を自主的にしてもらっている。事務関係でも、同じように台帳を作っていくように考えている。

【デイサービス赤目の森の介護事業の収支状況】 単位円 2003. 04. 01~2004. 03. 31

収入		支出	
・ 介護報酬	8,275,147 (69万円/月)	・ 人件費	3,669,935 (31万/月)
・ 食事自費代等	353,572 (職員分含む)	・ 家賃等	4,775,000 (40万/月)
・ 雑収入	207,424 (ホタル狩等)	・ 事務費	170,000 (概算)
		・ 保険関係	100,000 (概算)
		・ 企画費用	150,000 (概算)
		・ 備品費用	150,000 (概算)
		・ 車両費用	150,000 (概算)
		・ その他	116,184 (概算)
<hr/>		<hr/>	
収入合計	8,836,143	支出合計	9,281,119
収支差額		マイナス 444,976	

(収支概要)

- ・ 03年4月のその月の利用者延べ25人 介護報酬17万円から本格的に稼働を始めた
- ・ 04年3月4月の平均は、利用者延べ124人 介護報酬113万円となっている。これで、次年度の収入を予測すると113万×12ヶ月=1356万×1.2伸び率 =1627万円となる。(135.5万/月)
- ・ 現在 一ヶ月の利用日が22日で延べ124名が利用しているということは、一日5.6人利用。
- ・ 延べ124人の利用で113万円の報酬があるということは、お一人様1回9112円の報酬となる。
- ・ デイサービス赤目の森は、今のところ定員10名(最大15名までいける)だが、次年度には平均1日の利用者数を1名増員して、6.6人の利用とすれば報酬の予想と合致するので、低いくらいの予想かもしれない。
- ・ 03年度の収入合計に対する人件費割合 41.5% 同 家賃等 54%
- ・ 人件費のここ二ヶ月の平均は58.6万円×12ヶ月=703.2万円+α が次年度の人件費予想
- ・ デイサービス赤目の森のヘルパーさんには現在時間給750円の支給しかない。また、今年度には賞与は出さなかった。毎日激務をこなしている人たちにもう少し時間給のアップや賞与支給を計りたいと考えている。年間1ヶ月の賞与でも出せるようにしていきたい。
- ・ 家賃には、光熱費車両費食事提供費などが含まれてエコリゾート赤目の森に支払われている。現在は介護利用日一日25000円で計算している。03年度は月平均16日利用日 最近の一月の利用日は22日で、22日×25000円×12ヶ月=660万円が次年度の家賃予想

次年度の収支予想				収入対比
・ 介護報酬	1627万	・人件費	750万	43.3%
・ その他	102万	・家賃等	660万	38.1%
		・その他	164万	
収入合計	1729万	支出合計	1574万	
収支差額 155万円プラス				

みどりの基金 会計報告 2004. 3. 31

◆ 協力者数 62名 協力者一覧 (申し込み順 敬称略)

藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	遠 典子(室生)
水谷義明 (吹田)	佐々木倭文字 ^{1.2} 口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民 ² 口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 3口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊 ² 口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子 ^{0.2} 口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松シズ子 ¹⁰ 口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子 ^{0.5} 口(西宮)			

以下の方々が今年度協力していただいた方々です。

仲田敏 ^{0.4} 口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二 ^{0.5} 口(名張)	水谷義明 (吹田)
村上豊 ^{0.2} 口(堺)	山岡義典 (狛江)	福森亮二 2口(名張)	

◆ 口数 75 口	◆ 基金総額 ￥3,750,000-
◆ 取得不動産	第1号地 第2号地
買取日	97年2月 2000年12月
面積	2934平方メートル 1086平方メートル
住所	三重県名張市上三谷字赤坂 三重県名張市上三谷字赤坂
地目	山林 田
名義	特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会 吉森 加大
取得価格	￥1,501,000- ￥1,000,000-
手続き費用	￥10,842- ￥44,420-
トラスト地看板設置 費用	￥141,750-
1号地舞台コンパネなど	￥75,453-
	2004. 3. 31現在の取得整備費用合計 ￥2,773,465-
	2004. 3. 31現在のトラスト資金残 ￥976,535-

第1号地現況

- ・ コロシアムの舞台を修理した。 昨年の木洩れ陽コンサートでは多くの人たちが集まった。

第2号地現況

- ・ 柵をしてお米収穫した。 地目を田から変更する手続きを行った。完了は1年以上かかる見通し。
- ・ 木製トレイルの補修ができて、ハッチョウトンボの生息地も草刈ができた。

2004年度 予算計画書 案

04.4.1～05.3.31

収 入		支 出	
◆ 1	会費収入 450.000	1	本来事業費
◆ 2	寄付金収入 500.000	①	助成金事業費 4.500.000
3	各種助成金収入 4.500.000	②	企画運営費 500.000
◆ 4	トラスト寄付金収入 500.000	◆ ③	里山整備費 600.000
5	実費負担収入 100.000	④	受託事業費 1.000.000
6	受託事業収入 1.000.000	⑤	介護事業費 15.740.000
7	自主事業収入 600.000		本来事業費計 22.340.000
8	介護事業収入 17.290.000	2	管理費
9	その他収入 100.000	①	図書印刷費 150.000
		②	諸会費 106.000
		③	事務消耗費 200.000
		◆ ④	地代 50.000
		◆ ⑤	備品消耗費など 500.000
		◆ ⑥	車両関係費 500.000
		⑦	出張旅費 500.000
		⑧	通信費 200.000
		⑨	その他 100.000
			管理費合計 2.306.000

◆印は里山保全に係る項目 概算			
会費収入	450.000		
寄付金収入	500.000	小計	
トラスト寄付金収入	500.000	145万	
里山整備費	600.000		
地代	50.000		
備品消耗品費	250.000	小計	
車両関係費	250.000	115万	

当期収入合計	25.040.000	支出合計	24.646.000
	当期繰越差額	394.000	
前期繰越残額	4.729.471	次期繰越収支差額	5.123.471

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額な金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分からない。これまでの実績で考えている。
- ・ 特にバランスのよい収入構成を目指すために、会員増加を大きな目標としていかなければならない。
- ・ デイサービス事業の検討という課題もあるが、一応常識的な数値を計上している。
- ・

《支出部門》

- ・ 03年度で全ての助成金に関して支払いを終了した。04年度で入ってきた金額を当年で支払いを完了できるかはわからないが、一応全額支払に計上した。
- ・ 基本的には、本来事業に重点を置いて予算計上した。デイサービス事業での予想プラス分を里山整備や企画実行などで利用するように考えた。
- ・ 出張旅費は、受託 助成事業の減少の場合は、当然減額となる。

2004年度の活動方針（案）

1. マンネリと慢心に最大限留意し、創立10周年の節目の時を立派に迎えるために、事務局が「調整役」に徹して、信用と信頼が得られるような赤目の里山を育てる会の活動を追及する。
 - ・ 里山に関心を寄せる全ての人々に対して、親しめるイベントや自然体験会などを行う。
 - ・ 地元へ依拠し、情報発信に心がけて 意思疎通が図られるような取り組みを重視する。
 - ・ 育てる会の業務の分担化を計り、ステップアップした業務に変革していく。
 - ・ 事務局業務・里山保全業務などマンネリ化を打開して、原点にいつも立ち戻るような活動を推進していく。そのために事務局は「推進役」の役割以上に「調整役」に徹しなければならない。

2. 里道の整備や草刈等の仕事から、一歩進んで「里山の中味」の整備に活動の比重を転換していく。
 - ・ 「里山の原風景」の維持・発展は、育てる会の大きな目的の一つで、これを実現していくためには、里山の周辺整備だけではなく、里山の中まで深く関わり、除伐・間伐などの活動を展開していかなければならない。
 - ・ そのために、里道整備などで地元の人達の信頼を獲得して、その上で「貸し借り」や「売買」などの可能性を追及して、手の入れられる「里山」の確保をしていかなければならない。

3. 創立10周年記念事業としてのトラスト地の獲得の準備と地主さんたちとのネットワーク作りを行う。
 - ・ 赤目の里山の中心部の買取りを行うことを、里山を守り育てる「シンボリックトラスト地」として10周年の記念事業として準備して、育てる会は「ナショナル・トラスト運動」を中心的課題として取り組む団体であることをアピールしていきたい。
 - ・ 「買取り」だけではなく、「借りる」ことも重要視点として、ナショナル・トラスト運動を幅の広い取り組みに変革していくことが求められる。

4. 行政との協働の事業の推進を計るとともに、「里山保全条例」などの政策提言を実現していく。
 - ・ 「木質バイオマスエネルギー」関連の協働事業提案や「里山生活学校 & フィールドミュージアム構想」提案など、行政に対して政策提言能力を高めると共に、「赤目の里山自然公園化実現」のための「里山保全条例」(案)策定に取り組んでいく。（千葉県里山保全条例別紙添付）
 - ・ これまで、多くの政策提言や協働事業に取り組んできたが、行政と協働して行える事業提案が未処理となっているものについては、あらためて働きかけてその実現を計っていきたい。

5. 里山での介護サービス提供のあり方を再検討していく。
 - ・ 介護サービス実現のため、定款変更 事業推進の過程が急ぎすぎたために、会員の人たちの中に「責任の問題」や「育てる会内における有償・無償ボランティアの区分け」などの問題が存在する。「推進・撤退」を含めて一定期間に議論してその結論を出していく。
 - ・ 結論がでるまでの期間は、利用者の福祉実現のために 育てる会が果たしてきた役割を担うこととする。

6. 関係する全てのネットワークを大切にして、情報公開と貴重な情報収集をして、会の発展につなげる。
 - ・ 名張市市民活動センター ナショナルトラスト 三重県NPO関連団体などとのネットワークの構築。

役員選出

- 議案提案 2. 役員改選をしなければならない。
(定款15条 役員任期は2年とする。再任を妨げない。)

第14条 理事及び監事は 総会において選出する。

第6回定期総会で、理事の満期を終了する人たち

第13条 この法人に 次の役員を置く。

- 1) 理事 5人以上15人以内 2) 監事 1人または2人

理事長	吉森 加大	三重県名張市安部田
副理事長	島田 つや子	兵庫県西宮市上甲子園
理事	西田 宏民	奈良県生駒市壱分町
理事	田村 修市	三重県名張市赤目町丈六
理事	熊本 芳文	三重県名張市百合が丘
理事	前田 善孝	三重県名張市赤目町檀
理事	永山 健二	三重県名張市つつじが丘
理事	仲田 敏	三重県名張市桔梗が丘
理事	吉田 薫	三重県名張市緑ヶ丘
理事	伊井野 雄二	三重県名張市梅が丘
監事	小田 俊朗	三重県名張市安部田